

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|--|----------------|---------------------------------|--------------|
| さのたんプロジェクトB I (佐野学：古民家の再生と利用) Area Study on Sano: Renovation and Utilization of Old Folk Houses | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 () | | |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| ビジネス実務総論 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 地域社会起業家論 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス |
| 長江 庸泰 友松 篤信 | | 本館2F (研究室1) | 月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く) | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 佐野には、活用されていない古民家が多数存在します。本実習では、こうした古民家を修復・保全し、地域経済の活性化につなげていく活動を企画、実践します。アウトレットは佐野市の税収には貢献しますが、地域の物産販売や観光振興などの面で地域経済にあまり結びついていません。一方、佐野に点在する貴重な地域資源、古民家を地域のヒト・モノ・カネと結びつけて再生していけば、佐野の経済、社会、歴史、文化に貢献することになります。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①地域資源としての古民家を理解する。 ②古民家の歴史を発掘するフィールドワークの方法を習得する。 ③古民家利用を参加者と考えるグループワークの方法を習得する。 ④清掃作業や聞き取り調査などを行う中で、階層や年齢の異なる人々とのコミュニケーション方法を学ぶ。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 本実習は佐野市葛生の吉澤邸を対象とする。明治に建てられた吉澤邸を葛生のヒト・モノ・カネと結びつけて再生するために、聞き取り調査を行い、葛生にはどのような資源があるか、それらをどのように利用できるかについて調査し、再生計画を立案する。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①古民家の調査を通じて歴史と関連付けて現在を学ぼうとする態度を養う、②聞き取り調査などを通じてフィールドワークの方法と態度を学ぶ、③いかなる階層や年齢の人ともコミュニケーションできる態度を身につける、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニングをビジネスシーンにおいて活用できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス（シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等）/グループ分け/レポートの課題説明 | | | |
| 第2回目 | 葛生の地域資源を知る（吉澤石灰工業株式会社、吉澤家、吉澤記念美術館、化石館など）、場所：葛生、土曜日（第2回目と第3回目は合同） | | | |
| 第3回目 | 葛生の地域資源を知る（吉澤石灰工業株式会社、吉澤家、吉澤記念美術館、化石館など）、場所：葛生、土曜日（第3回目と第4回目は合同） | | | |
| 第4回目 | 葛生の行政・企業・地域のプレイヤーを知る（「団・暖・談」の活動）、場所：葛生、土曜日（第4回目と第5回目は合同） | | | |
| 第5回目 | 葛生の行政・企業・地域のプレイヤーを知る（「団・暖・談」の活動）、場所：葛生、土曜日（第4回目と第5回目は合同） | | | |
| 第6回目 | 吉澤邸の修復・保全作業の計画策定 | | | |

| | |
|-------|---|
| 第7回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（1-1）、場所：葛生、土曜日（第7回目～第10回目は合同） |
| 第8回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（1-2）、場所：葛生、土曜日（第7回目～第10回目は合同） |
| 第9回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（1-3）、場所：葛生、土曜日（第7回目～第10回目は合同） |
| 第10回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（1-4）、場所：葛生、土曜日（第7回目～第10回目は合同） |
| 第11回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（2-1）、場所：葛生、土曜日（第11回目～第14回目は合同） |
| 第12回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（2-2）、場所：葛生、土曜日（第11回目～第14回目は合同） |
| 第13回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（2-3）、場所：葛生、土曜日（第11回目～第14回目は合同） |
| 第14回目 | 吉澤邸の修復・保全作業（2-4）、場所：葛生、土曜日（第11回目～第14回目は合同） |
| 第15回目 | 最終発表（活動実績、学んだこと、パワーポイント使用）、発表内容はレジュメ1枚にまとめる |
| | |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|--|
| 授業参加態度 | 40% | 以下の3点から評価する：①フィールドワーク（積極性、理解度、グループへの働きかけ）、②コミュニケーション（聞く態度、対応力、論理性、質問力）、S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。 |
| レポート | 20% | Sのレポート（レジュメ）の評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート（レジュメ）は最終講義時に提出。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | 40% | Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。 |
| その他 | | 上記評価基準に基づき成績評価：S（傑出した内容）=90-100、A（平均を上回る内容）=80-89、B（平均的内容）=70-79、C（平均を下回る内容）=60-69、D（左記以外の内容）=0-59 |

教科書と参考図書

長江庸泰作成の“デジタルテキスト[佐野学 2017年度版]”

履修上の留意点・ルール

本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。